

83歳馬術現役

83歳と高齢ながら豊中市の服部緑地乗馬センターで連日、高さ約1.5メートルの障害物を飛び越え、悠々と馬を乗りこなす男性がいる。乗馬歴75年の同センター教官・岩坪徹さん(高槻市)。今月初めの競技大会では入賞こそ逃したものの、「これからも競技を続けていけたら幸せ」という。

服部緑地乗馬センター

岩坪教官

兵庫県明石市で生まれ、京都市で育った岩坪さんは、8歳で乗馬を初めて体験した。同志社中を卒業後、陸軍士官学校に入ったが、終戦後に「戦前の教育はすべてが間違っていた」と総括され、自分のすべてを否定された気がした。

そんな時、傷ついた心を癒やしてくれたのが馬だったという。「馬はたまさかないし、裏切らない。一緒にいるだけで救われた」と振り返る。

旧制六高(岡山)と京都大では馬術部に在籍し、大学1、3年で出場した国体の「総合馬術」競技

障害ヒラリ 今年、競技復帰

でそれぞれ優勝した。52年に大学卒業後、池田市内の自動車会社に勤めながら、趣味として毎日のように馬に乗った。77年に乗馬クラブを運営する「乗馬クラブクレイン」(羽曳野市)に転職し、94年に定年退職するまで教官を務めた。その後茨城県や北海道に単身

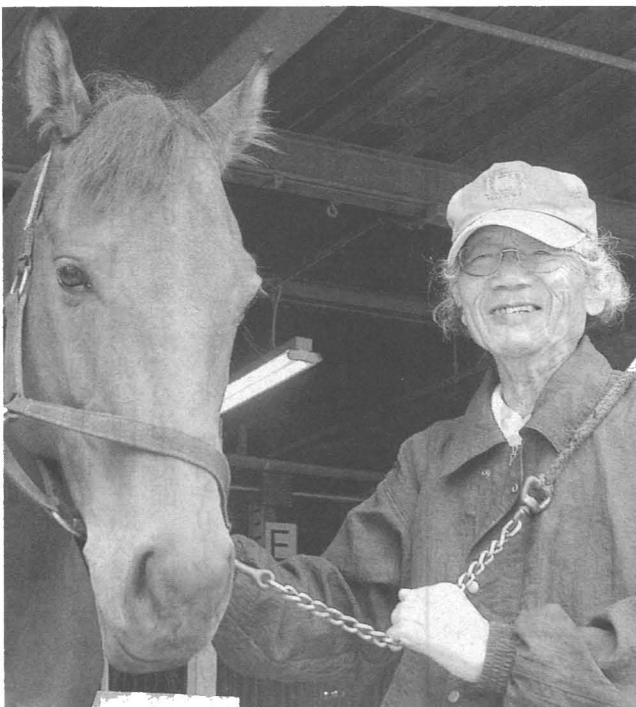
6歳の愛馬

ジュネスと

で出向き、乗馬に親しんできたが、高槻に残っていた妻が体調を崩し、自身も落馬で負傷したことから、2009年に高槻に戻った。服部緑地乗馬センターからの誘いもあって、81歳で再び教官として働くことになった。

競技会への出場は同年5月から遠のいていたが、今年3月から復帰した。6月4、5日の府大会では、高さ約1.5メートルの障害もある「障害飛越」に出場、入賞まであと一歩という手応えをつかんだ。愛馬のジュネス(6歳)の調教は今年に入って始めたばかりで、障害を難なく飛ぶにはもっと訓練が必要

といい、「馬は大事に世話をすると、懐いてくれる。今後もジュネスと試合に出るつもりです」と語った。



愛馬ジュネスの世話をする岩坪さん(豊中市の服部緑地乗馬センターで)

岩坪さんについて、日本馬術連盟(東京)は「80歳を過ぎて、障害飛越に取り組む人は珍しい。乗馬を通じて健康を維持されており、素晴らしい」としている。